



第2回 国立熊本高専 地域イノベーションセンターシンポジウム

あ、テクノモーション。

平成22年度 八代市工業振興協議会 地域資源等研修事業

いま、「地域資源」を活かす!

～地域の資源と高専の技術を活かした取組みのご紹介～

参加費
無料

2009年10月、熊本電波高専と八代高専が教育・研究の高度化をめざして、2つのキャンパスを持つ「熊本高専」に生まれ変わりました。同時に、より積極的な地域貢献活動をめざして「地域イノベーションセンター」を発足させました。本センターでは、今回、「地域資源」にスポットを当て、高専の持つ技術をより一層ご活用いただくことをテーマに、下記の内容でシンポジウムを開催いたします。

本シンポジウムでは、基調講演として、大成 博文 徳山工業高等専門学校 教授をお招きして、「未来材料としてのマイクロバブルの可能性」についてご紹介いただきます。また、本校の取組みとして、大山 英典 教授より、「半導体分野における地域連携と人材育成」の取組みについて、井山 裕文 准教授より「衝撃波による食品加工の可能性」について、その概要をご紹介します。

地域のみなさま方の積極的なご参加を、心よりお待ちしております。

日時 2010年 11月5日(金) 14:00 ~ 17:00

場所 八代ホワイトパレス

〒866-0883 熊本県八代市松江町290-1 (交通アクセスURL: <http://www.whitepalace.co.jp/yatsushiro/access/>)

● プログラム

- | | | | |
|-------|----------------------|---------|---|
| 13:30 | 開場 | | |
| 14:00 | 開会 | 挨拶 | 宮川 英明 熊本高等専門学校長 |
| 14:10 | 基調講演 | 大成 博文 氏 | 徳山工業高等専門学校 教授
演題:「未来材料としてのマイクロバブルの可能性」 |
| 15:30 | 講演1 | 大山 英典 | 熊本高等専門学校 教授
演題:「半導体分野における地域連携と人材育成」 |
| 16:20 | 講演2 | 井山 裕文 | 熊本高等専門学校 准教授
演題:「衝撃波による食品加工の可能性」 |
| 17:00 | 閉会 | | |
| 17:30 | 講演者を囲んでの交流会 | | |
| | 同時開催 熊本高専 研究紹介パネル 展示 | | |



マイクロバブル育ちの
ホーレンソー/(株)APJ提供

◆主催/国立熊本高専 地域イノベーションセンター、八代市工業振興協議会

後援/熊本県、八代市、合志市、熊本県工業連合会、(財)くまもとテクノ産業財団、
くまもと技術革新・融合研究会(RIST)、熊本高専地域振興会

問合せ先(下記のいずれでも結構です)

- 〒866-8501 熊本県八代市平山新町2627 熊本高等専門学校 総務課 企画調整係
Tel:0965-53-1390 FAX:0965-53-1219
E-mail:so-kikaku@kumamoto-nct.ac.jp
- 〒861-1102 熊本県合志市須屋2659-2 熊本高等専門学校 管理課 産学連携係
Tel:096-242-6433 FAX:096-242-5503
E-mail:sangaku@kumamoto-nct.ac.jp
- 〒866-8601 八代市工業振興協議会事務局(八代市商工観光部企業立地港湾課内)
Tel:0965-32-3662 FAX:0965-32-8944 担当:松岡

* 参加申込みは10月29日(金)までお願いいたします。



革新する技術、創造する未来。夢へ続く熊本高専。

熊本高等専門学校

第2回 国立熊本高専 地域イノベーションセンターシンポジウム

参加申込みフォーム

FAX:0965-53-1219

E-mail:so-kikaku@kumamoto-nct.ac.jp

参加申込み締切り: **10月29日(金)**

お名前(ふりがな)			
所属(企業名、大学名等)			
電話番号			
メールアドレス			
交流会 (○でお囲みください)	参加 ・ 不参加	●会費:2000円	●時間:午後5時半～7時 (会場:八代ホワイトパレス内)

講師プロフィール & 講演概要



おおなり ひろふみ
● **大成 博文** 徳山工業高等専門学校 土木建築工学科 教授

1980年代初めから「マイクロバブル技術」を独自に開発し、貯水池の水質浄化や水産養殖に取り組んでいます。特に、1999年、広島カキ養殖で赤潮による斃死防止に取組み、30年ぶりに1年もののカキの出荷を可能とし、さらに翌年には広島県史上初の夏ガキ出荷にも成功して、全国的な注目を浴びています。これらは、マイクロバブルの優れた物理化学的特性と機能性によるもので、マイクロバブルは今後においても有望な「未来材料」と考えられます。本講演では、これらの具体的な適用事例(健康・医療、食品・植物、環境など)を踏まえながら、その課題と魅力的な可能性について示す予定です。「マイクロバブル技術」を、第1次、第2次産業、さらには地球規模の環境改善に役立て、明るく豊かな21世紀の日本を創ることを使命(ミッション)としています。

おおやま ひでのり
● **大山 英典** 熊本高等専門学校 情報通信エレクトロニクス工学科 教授

1982年に旧熊本電波高専に着任以来、地域共同テクノセンター長等を歴任し、熊本県の半導体関連企業との連携を推進しています。本講演では、これまで取組んできた半導体関連企業(代表例として、阪和電子工業(株)、(株)湖東製作所、日本ガスケミ(株)、テクノデザイン(株)、中央電子工業(株))との共同研究や、くまもとセミコン塾(高専等を活用した人材育成事業およびものづくり分野の人材育成・確保事業)などの若手技術者の人材育成について事例報告を行うとともに、熊本地域における半導体(電子・情報)産業の更なる飛躍に必要な「ものづくり」の重要性とその活性化について、シンポジウム参加者と一緒に考えていく予定です。

い や ま ひろふみ
● **井山 裕文** 熊本高等専門学校 機械知能システム工学科 准教授

1970年八代生まれで、旧八代高専卒。卒業後、熊本大学に進学し、1997年から母校に着任しました。以後、衝撃波を利用した金属加工に携わり、現在では衝撃波を応用した食品加工で、沖縄高専・水産大学校等と共同研究に取り組んでいます。2005年には、国際食品工業展(FOOMA JAPAN)において、アカデミックプラザ賞を受賞し、食品加工に着目し、地域産物の付加価値を高める商品開発をめざしています。本講演では、衝撃波とはどのようなものか、その解説とこれまでの応用例と食品加工の実施例、そしてこれからの技術開発の可能性や取組みについて紹介する予定です。